

2016 年度活動報告 CJP 授業：会話・聴解 4

西村 由美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、中級から中上級の学習者を対象とした、週2コマのクラスである。受講者は10名であった。会話の話し手・聞き手として、1) 適切なスタイルを選択すること、2) 相手と協力しながら進めること、3) 自分の意見をわかりやすく伝え、相手の意見をよく聞くこと、を目標としている。メインテキストは『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』（梶本総子・宮谷敦美（2004）くろしお出版）である。このテキストは「依頼」「許可」といった機能会話を中心としたロールプレイを課題としているが、定型的な会話の流れ・表現を学ぶだけではなく、様々な「話す活動」とその振り返りを行うことによって、自己モニタリング能力を高めることにも留意した。

2. 授業内容

初めの4回では、学生が様々な形式で話すタスクを通してこれまで学んだ日本語を総動員して話す経験をすること、また学生間のアイスブレイキングの効果を狙ってブレ活動（自分の町を紹介する、話し合って意見をまとめる・順位を決めるなど）を行った。その後、2回で一課の進捗でテキストの機能会話・トピック会話を扱った。学期期間中には、ディスカッション、スピーチを実施するとともに、学期後半では、各回15分程度の時間を各学生に割り当て、話題の提供者として、好きなテーマ・形式で話す活動を行った。テキストを参考にした機能会話の学習では、録音機器を使用し、録音した会話を聞きながら、よりよい表現や会話の流れを考え、再度録音するという流れで授業を進めた。また、各自がクラス外での日本人とのトピック会話を録音し、クラス内で音声シェアしながら振り返る活動も取り入れた。様々な日本人との実際の会話を聞くことで、自分を振り返るだけでなく、相手の話し方・話の進め方からも学ぶことを目指した。ディスカッションでは、録音しながら教師がその場で発話を文字化し、全員で議論の流れと表現を音声と文字の両面から振り返り、良い点・改善点などを話し合った。学期を通して、教室の内外の言語活動をつなぎ、学生の言語活動を拡張させるという方針でクラス運営を行った。

3. 成果と今後の課題

授業に対する学生の評価は概ねよく、教師のフィードバックも役立ったようである。複数の話す活動をどのように位置づけ、振り返りでは何をどのように観察し、次の段階へとつなげていくのか、そしてそのためにどう提示するのかを引き続き検討したい。